

シンポジウム 1

口腔癌検診

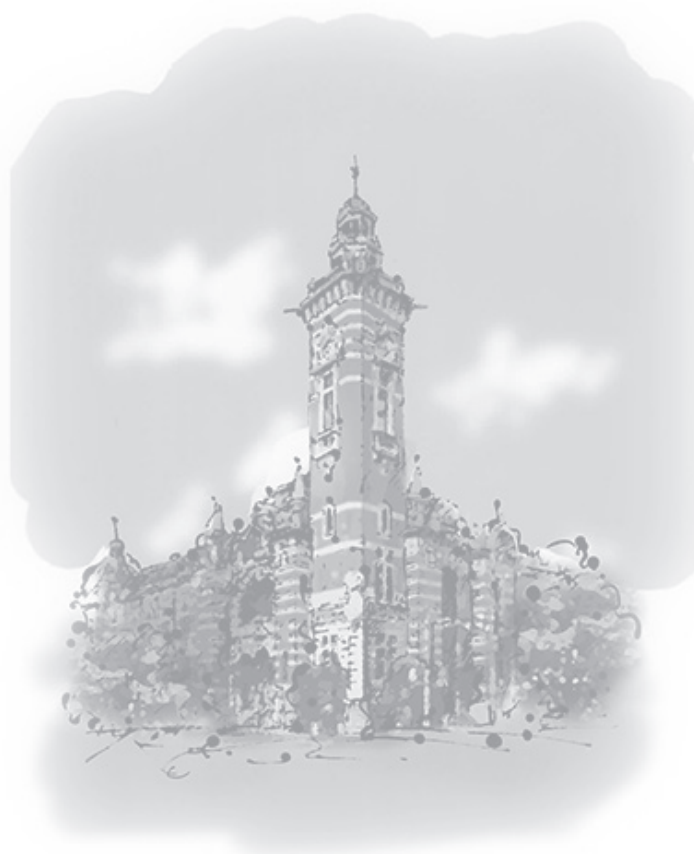
座長

柴原 孝彦

東京歯科大学 口腔外科学講座

佐々木 朗

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野



シンポジウム 1

口腔癌検診



S1-1 江戸川区歯科医師会 口腔がん検診への歩み

The Activity Report of the Oral Cancer Examination in Edogawa-ku Dental Association, Tokyo

○齋藤 祐一、石川 一郎、市川 裕文、田部 小百合、田中 宏和、児玉 健、
伊能 智明、常葉 信也、橋本 みゆき、福田 善則、野田 隆二、上田 雄平、
根本 秀樹、石川 祥一

公益社団法人 東京都江戸川区歯科医師会

Yuichi Saito, Ichiro Ishikawa, Hirofumi Ichikawa, Sayuri Tabe, Hirokazu Tanaka, Ken Kodama, Tomoaki Inou, Shinya Tokiwa, Miyuki Hashimoto, Yoshinori Fukuda, Takaji Noda, Yuhei Ueda, Hideki Nemoto, Shoichi Ishikawa
Edogawa-ku Dental Association, Tokyo

はじめに

口腔がんは、先進各国で減少傾向にあるが、わが国では増加傾向を示している。日本における口腔・咽頭がんの 5 年生存率は 56.9% で、全てのがん 28 部位のうち 20 番目の低い治療成績との報告がある。口腔がんの治療は進歩し、早期がんでは 5 年生存率は 90% 以上と良好であるが、進行がんでは 50% 以下と低く、進行がんに対する手術は重大な口腔機能障害を生じる症例が多いのが現状である。口腔がんにおいても、早期発見と早期治療が極めて重要である。

江戸川区歯科医師会の取り組み

江戸川区は、がん予防推進計画を策定した。同区は、がんによる死亡数の増加が顕著で、標準化死亡比は、全国平均の約 1.2 倍、さらに平均寿命が全国平均に比べ約 1 歳短く、がんは同区民の最大の健康課題となっている。

公益社団法人東京都江戸川区歯科医師会では、口腔がん検診事業を計画した。目的は 1. 区民の健康増進とがん予防 2. 口腔がん及び口腔粘膜疾患への周知と啓発活動 3. 口腔がん及び口腔粘膜疾患の早期発見 4. 江戸川区歯科医師会会員の口腔粘膜疾患への知識の向上とスキルアップ、である。

まず、某歯科大学口腔外科学講座の協力のもとに口腔がん集団検診を開始した。そして、口腔がん検診認定協力医制度を設けた。講習会・研修会制度を確立し、会員の口腔粘膜疾患に対する知識の向上を図ると共に、実習を含めた研修を継続的に行っている。

また、平成 25 年より某歯科大学口腔外科講座と本会で全国初の「口腔がん検診ナビシステム」を運用開始した。これは某歯科大学口腔外科講座と協力医をインターネット回線で繋ぎ、口腔がん及び口腔粘膜疾患に関わる所見や疑問点について、24 時間体制で、いつでも相談できるシステムとして構築されたものである。

そして、平成 27 年 4 月 1 日より、江戸川区健康部、江戸川区医師会のご理解とご協力により区民の要望でもあった口腔がん個別検診事業が江戸川区委託事業として開始された。

おわりに

今回、我々は公益法人東京都江戸川区歯科医師会の口腔がん検診事業への取り組みと、口腔がん集団検診の結果、さらに平成 27 年 4 月より開始された口腔がん個別検診事業への歩みと半年間の結果について報告する。

略歴

- 1978 日本大学歯学部卒業
- 1979 齋藤歯科医院開業
- 1995 博士（歯学）取得
- 1996 日本歯周病学会 専門医
- 2004 日本歯内療法学会 専門医
- 2011 公益社団法人東京都江戸川区歯科医師会 副会長
- 2012 日本歯科用レーザー学会 指導医
- 2014 学校法人滋慶学園東京医薬専門学校歯科衛生士科 講師
- 2015 公益社団法人東京都江戸川区歯科医師会 会長
- 現在に至る

シンポジウム 1

口腔癌検診



S1-2 神奈川県における口腔がん検診システムの概要

Screening system of oral cancer in Kanagawa prefecture

○石川 好美¹、太田 嘉英²、小早川 元博³、石井 宏明⁴¹ 藤沢市民病院 歯科口腔外科、² 東海大学医学部 歯科口腔外科、³ 横浜労災病院 歯科口腔外科、⁴ 川崎市立多摩病院 歯科口腔外科Yoshimi Ishikawa¹, Yoshihide Ota², Motohiro Kobayakawa³, Hiroaki Ishi⁴¹Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Fujisawa City Hospital, Kanagawa, Japan, ²Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Tokai University, School of Medicine, Kanagawa, Japan, ³Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Japan Labour Health and Welfare Organization, Yokohama Rousai Hospital, Kanagawa, Japan, ⁴Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Kawasaki Municipal Tama Hospital, Kanagawa, Japan

神奈川県では平成 18 年より、神奈川県歯科医師会と日本口腔外科学会神奈川県医療連携部会の協力事業として無料口腔がん検診を開始した。県単位という広域での口腔がん検診システムの概要と検診結果を報告し、今後の課題について検討したので報告する。当県における口腔がん検診の目的は、集団検診で口腔がんや前がん病変を早期発見し、地域における口腔がんの発生率や死亡率を減少させること、また検診の広報活動を通じて口腔がんへの認知度を高め、県民の口腔保健増進に貢献することにある。当該システムは、一般歯科医師に対し口腔がん検診協力医となるための指導と粘膜疾患の診断力向上を目的とした研修プログラムと共通検診票を用いた検診協力医と口腔外科専門医によるダブルチェック方式の集団検診からなる。研修プログラムは、検診協力医育成のための研修会を毎年 1 回半日コースで実施し、現在 1302 名（県歯科医師会員の 35%）の検診協力医が登録されている。神奈川県医療連携部会は、研修会への講師派遣と大学病院や地域基幹病院所属の口腔外科専門医を検診に派遣している。口腔がん検診は地域歯科医師会を中心に実施され、平成 27 年度は 20 地区で予定している。要精密検査と判断された場合は、神奈川県のがん診療拠点病院や地域基幹病院に紹介し、検診から検査・治療への円滑な連携システムを構築している。検診結果は県歯科医師会で一元管理し、精密検査の結果と共に研修会で年次報告している。口腔がん検診は、これまで 158 回実施され総検診者数は 6513 名で 1 回平均 41.2 名であった。性別では男性 1,902 人、女性 4621 人で男女比 1:2.5、平均年齢 66.2 歳であった。検診結果は異常なし 43,973 人（83.3%）、経過観察 691 人（10.7%）、要精査 396 人（6%）であった。口腔がんは 9 例（舌 6 例 下顎肉肉 1 例 口蓋 1 例 軟口蓋 1 例）発見され、発見率は 0.14% であった。

今後の課題として、検診に対する地域差、個別検診の併催・移行、細胞診の導入、検診協力医の更新制度、行政との折衝、など地域歯科医師会による個別対応となっているのが現状である。また全国レベルで検診データを集計し一元管理集計できれば、より充実した口腔がん検診システムになると考える。

略歴

昭和56年 3 月 日本大学松戸歯学部卒業
同 4 月 横浜市立大学医学部 口腔外科学講座入局
昭和57年12月 同 助手
平成 3 年 7 月 同 講師
平成 5 年10月 藤沢市民病院 歯科口腔外科医長
平成18年 4 月 同 主任部長
現在に至る

資格

医学博士（横浜市立大学）、日本口腔外科学会専門医、日本口腔外科学会指導医、歯科医師臨床研修指導医
横浜市立大学医学部非常勤講師、日本顎顔面インプラント学会指導医、日本癌治療認定医機構教育医（歯科口腔外科）

役職

日本歯科薬物療法学会評議員
社会保険支払基金神奈川支部主任審査委員

シンポジウム 1

口腔癌検診



S1-3 歯科医師会と連携して行ってきた「口腔がん検診」 —25年の成果と今後の発展のための方策—

Oral cancer screening carried out in cooperation with the Dental Association, strategies for future development

片倉 朗

東京歯科大学 口腔病態外科学講座

Akira Katakura

Department of Oral pathobiological science and surgery, Tokyo Dental College

本学では主に地域歯科医師会と共同した口腔がん検診事業を 1990 年から開始し、本年で 25 年が経過した。現在までに本学の 3 つの病院（水道橋病院、千葉病院、市川総合病院）の口腔外科、歯科・口腔外科ならびに口腔がんセンターが協力して、連携する各地域の環境にあった口腔癌検診事業を継続的に行ってきた。1992 年に千葉市歯科医師会と開始した口腔癌検診事業は 2015 年 9 月現在、千葉県の 9 郡市、東京都の 4 市区、埼玉県の 1 市に広がり、それぞれの地域性に合わせた形式で年 1~3 回の集団検診を行っている。1992 年から 2008 年までの集団検診において千葉県全域では 7,030 名の検診を行った。その中で、口腔癌 8 名、前癌病変 60 名、検査または治療が必要な口腔粘膜疾患（良性腫瘍、扁平苔癬など）707 名が抽出され、口腔癌の発見率は 0.11% であった。この発見率は各年の累計でもほぼ同様であった。

一方で、口腔癌検診の普及のために以下のことに取り組んできた。1. 市民への口腔癌の周知活動、2. 地域歯科医師会の会員をはじめとした一般の歯科医師への生涯教育活動、3. 行政への口腔癌の予防、早期発見の重要性の説明、4. 口腔癌スクリーニングのためのインフラの整備ならびに検査機器や検査方法の開発、などである。これらの活動の成果として、千葉市、市川市、江戸川区では、行政からの予算を確保して恒常的に歯科診療所における任意型の検診を展開するに至った。また、粘膜疾患の診察の簡便化と診断精度の向上のために、インターネットを利用し歯科診療所から送信された病変の画像から口腔外科専門医が経過観察や二次医療機関への紹介をアドバイスすることを目的とした「口腔がん検診ナビシステム」を SE 企業と開発し既に実用化している。本システムは、歯科医師が自院のチェアサイドに居ながら専門医の意見を聞くことができ症例ごとにサポートが可能であること、遠隔地でも診療支援が可能であることがメリットである。

今回は、私たちが継続的に行ってきた「口腔がん検診」の普及活動の成果とそれらから得られた問題点と将来的展望について報告する予定である。

略歴

1985年	東京歯科大学卒業
1991年	東京歯科大学大学院修了（歯学博士）
2003年~2004年	UCLA歯学部口腔外科・医学部頭頸部外科に留学
2008年	東京歯科大学 口腔外科学講座准教授
	東京歯科大学大学院「がんプロフェッショナル養成プラン」コーディネーター
2009年9月	東京歯科大学 口腔健康臨床科学講座口腔外科学分野 准教授
2011年4月	東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座 教授
2015年4月	東京歯科大学 口腔病態外科学講座 教授
【所属学会等】	
(公) 日本口腔外科学会指導医、(公) 日本老年歯科医学会指導医、(社) 日本口腔診断学会指導医、(社) 日本顎顔面インプラント学会指導医、(公) 日本がん治療認定医機構暫定教育医(歯科口腔外科)、(社) 日本有病者歯科医療学会指導医、(社) 日本口腔腫瘍学会暫定指導医、(社) 日本感染症学会 インфекション コントロール ドクター など	

シンポジウム 1

口腔癌検診



S1-4 口腔癌検診—岩手県における現状と今後—

Oral cancer examination: Current situation and its future in Iwate prefecture

杉山 芳樹

岩手医科大学歯学部 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野

Yoshiki Sugiyama

Division of Oral Maxillofacial Surgery, Department of Reconstructive Oral and Maxillofacial Surgery, Iwate Medical University

東北地方の各県歯科医師会が「東北口腔がん対策推進会議」を発足させ、2010年4月から岩手県でも岩手県歯科医師会と岩手医科大学歯学部口腔外科学分野が協力して口腔癌検診をスタートさせた。

東北地方の面積は日本の約18%と広い。人口は約8%で、中小規模の町が山地に隔てられた平野・盆地に分散して存在する。このような地域では、住民を集めて行う集団検診は回数が多くなり、検診する側の負担が大きい割には検診できる住民数は少ない。そこでこの口腔癌検診プログラムは、1か所に住民を集める検診方式ではなく、各県歯科医師会会員が歯科の日常臨床の中で口腔粘膜を意識的に観察して、口腔がんを、できれば前癌病変、前癌状態の段階の粘膜異常を見つけようとするものである。そして疾患を発見後に各地域の専門機関へ積極的に患者さんを紹介するシステムを構築するものである。

その結果、2010年4月から2012年3月までの2年間で、岩手県歯科医師会会員から本検診プログラムに従って岩手医科大学附属病院歯科医療センター口腔外科を受診した患者数は52名であり、この内8名を病理組織学的に口腔癌と診断し、治療を開始することができた。

この口腔癌検診プログラムは、日本の大都市以外の多くの地域で実践できるものと期待されたが、2011年3月の東日本大震災によって中断されてしまっている。

しかし、この震災を受けて厚生労働科学特別研究「東日本大震災被災者の健康状態等に関する調査」が開始された。岩手医科大学では2011年12月から岩手県上閉伊郡大槌町町民を対象に健康に関するコホート調査を実施し、現在も継続している。これは大槌町民に対し、町内の数カ所に検診所を設け、生活習慣、血液検査、内科検診と同時に歯科検診を行うものである。われわれは、この歯科検診で、口腔外科の医局員による口腔粘膜疾患診査を行った。2011年から2014年の4年間で、同一集団に対し口腔粘膜検診を行い（延べ6,246名）、4名の口腔癌患者を発見している。

今回われわれは、この5年間に2種類の方式の異なる口腔癌検診を経験することができたので、これらの概要を報告したい。

略歴

- 1977年 3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 1983年 3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了
- 1983年 4月 北里大学医学部助手（形成外科）
- 1985年 1月 東京医科歯科大学歯学部助手（口腔外科学第二講座）
- 1986年 4月 健康保険総合川崎中央病院歯科部長
- 1987年 4月 日本電信電話株式会社関東通信病院口腔外科医長
- 1989年 4月 東京医科歯科大学歯学部助手（口腔外科学第二講座）
- 1994年 4月 岩手医科大学歯学部助教授（口腔外科学第二講座）
- 2004年12月 岩手医科大学歯学部教授（口腔外科学第二講座/口腔顎顔面再建学講座）
- 現在に至る
- 日本口腔外科学会指導医・専門医
- 日本癌治療学会暫定指導医